特集：手足口病（第32週までのまとめ）

手足口病の定点当たり報告数は，2.35（94例）で，第28週（12.68）をピークに減少を続けていますが，本年のピークは，昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降，最も高くなりました。

手足口病の原因ウイルスは，コクサッキーウイルスA16型（CA16）とエンテロウイルス71型（EV71）が代表的です。昨年までは，これら2つのウイルスによって流行を繰り返してきましたが，本年は，昨年まで検出の少なかったコクサッキーウイルスA6型（CA6）が主流となっています。

本年，京都市衛生環境研究所で受け付けた，手足口病患者の検体から検出されたウイルスは，CA6（20例），コクサッキーウイルスB4型（CB4）（1例）となっています。CA6は，昨年までは，ヘルパンギーナ，かぜ症候群から多く検出されてきたウイルスで，本年も，かぜ症候群（15例），ヘルパンギーナ（7例），その他（3例）からも検出されています。

年齢階級別では，平成12年以降の流行年と比較すると，1歳以下が，41.8%と多くなっています。

また，本年の手足口病は，従来の典型例と比べ発疹が大きく，四肢末端に限らず広範囲に認められる症例が目立つとの情報(*1)があります。これがCA6に起因する症状であるかについては検討がなされているところです。

○手足口病，CA6については，以下のホームページをご参照ください。

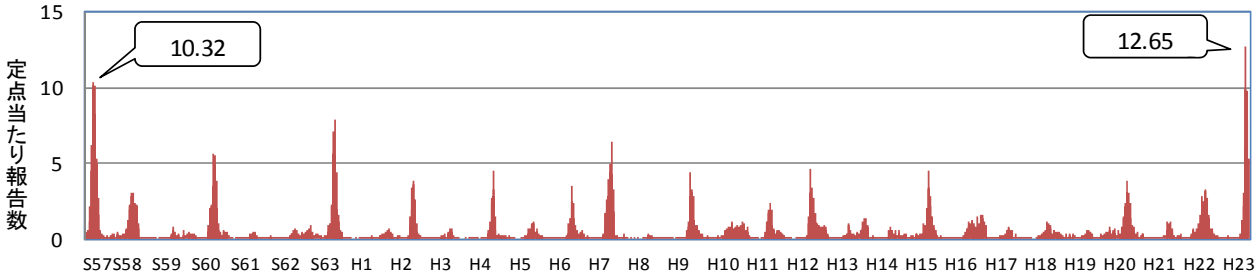
・国立感染症研究所感染症情報センター病原体検出情報（IASR）速報記事（ウイルス）－エンテロウイルス
http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/index-kv.html

＜速報＞コクサッキーウイルスA6型による手足口病の成人例―大阪府
http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3786.html

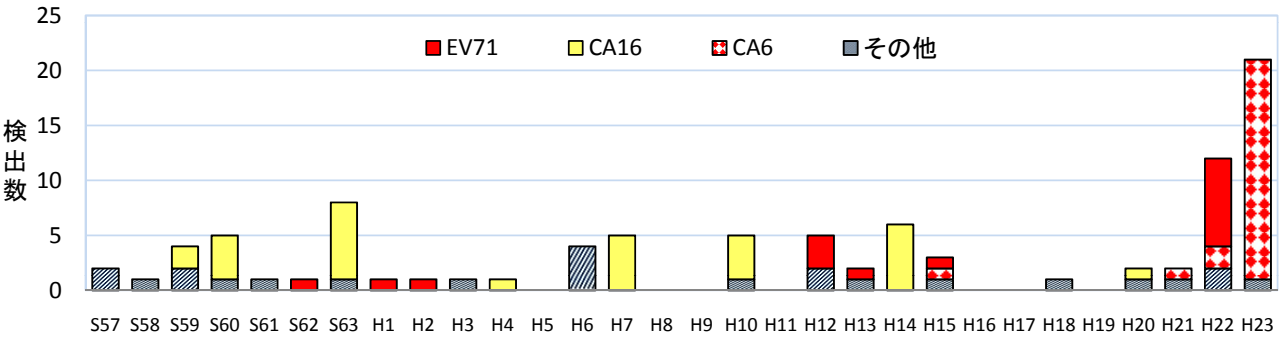
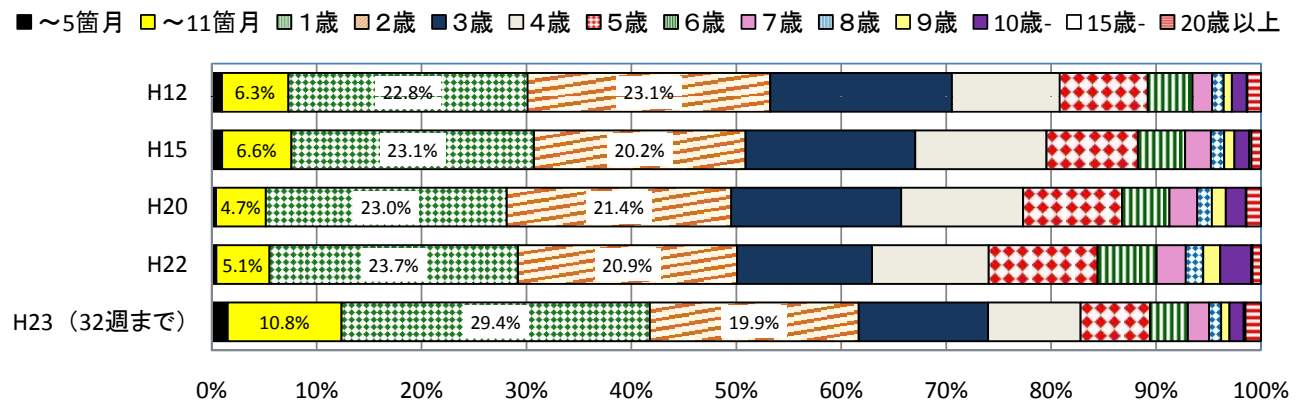
＜速報＞2011年のコクサッキーウイルスA6型感染による手足口病の臨床的特徴―静岡県
http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3784.html

国立感染症研究所感染症情報センター感染症週報（IDWR）2011年第26週(*1)
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2011/idwr2011-26.pdf

昭和５７年以降の定点当たり報告数の推移（平成２３年第３２週まで）



手足口病から検出されたウイルスの推移



平成12年以降の流行年の年齢階級別割合